



# 「知への初々しい憧れと畏敬の念」

～子どもの学びを支える教師力・学校力の強化～

校長通信第98号 令和3年11月26日

## 第5学年社会科見学について

11月25日（木）、第5学年の社会科見学を実施しました。見学先は、品川駅近くのクロネコヤマトミュージアムと川崎市扇島のJFEスチール東日本製鉄所です。学年の先生方が「5年生は、コロナ禍の中、昨年度からきちんとした社会科見学や遠足ができていなかった。」という、ずっと残念に思っていた気持ちを開放することができるくらい、快晴になりました。本当に嬉しい。行き帰りの公道での整然さ、バスの中でのマナー、挨拶、どれをとっても各々の子が気を付けて行動していたと思います。糶谷小の子どもたちは立派なんだと自慢したくなりました。

学びの目標は、運送業の工夫の理解とともに、製品生産の仕組みについて理解を深めることでした。クロネコヤマトミュージアムでは、担当の方が子どもたち15名ほどのグループに1人ついでくださり、クロネコヤマトの歴史展示を丁寧に説明してくださいました。クロネコヤマトは102年前、銀座で14名と4台の車で創業したことを知りました。当時は不安定な職業で、儲からなかったそうです。それが、大企業に成長しました。担当の方もおっしゃっていましたが、社訓は3つあり、それを常に肝に銘じているとのことでした。一つだけ紹介します。



「ヤマトは我なり」

顧客対応は、社員個人に任されているため、一人一人が会社の代表になることを意識して行動することだそうです。これは、教員にも当てはまるなあとひしひしと感じました。「学校は我なり」でいきましょう。

JFEスチール東日本製鉄所は圧巻でした。製鉄所内の写真撮影は厳禁なので紹介できませんが、とにかくすごかったです。一言でまとめるならば、製鉄所は科学である！ということ。とにかくスケールもでかい！製鉄所の広さは東京ドーム150個分、高炉の大きさ、鉄道がある、信号もあり、警察も取り締まるそうです。町が一つ分は入ってしまう感じでした。鉄の原料である鉄鉱石、石灰石、石炭が製鉄所あちこちに山積みになっています。この3つを使って、熱を加え、化学反応を起こし、鉄を取り出すとのことでした。今ではその原理は科学的に説明できます

（鉄を作った古代の人たちは、経験から知っていたのですね）。科学ってすごいなと思いました。溶けた鋼をのばす様子を実際に見学。赤に染まった鋼がのぼされる時には、ずいぶん距離が離れているにも関わらず、その放射熱で目を開けられないくらいでした。子どもたちは、ここに来ないとみられない製造過程を実際に見学し、製鉄所で働く人からお話を実際に聞き、生産される仕組みについて理解が深まったと思います。



社会科の学習内容の定着が促進されることを祈りつつ、将来このような仕事をしたいと夢に向かってくれる子どもが出てきてほしいと感じました。

丸1日の社会科見学。子どもたちは学び疲れ。本当にお疲れ様。学び疲れたっていい感じ！